

平成28年度学校評価(重点目標)

松本筑摩高等学校 定時制夜間部

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、		「心あたたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働किながらの学び」を願う生徒が、安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		今年度の重点目標			
		1. いじめや暴力を絶対許さない安心安全な学校をつくる。 2. 挨拶に始まるコミュニケーション力と社会性を育てる。 3. わかる授業・伸ばす指導を工夫して基礎的な学力を定着させる。 4. 地域に開かれ、地域とつながった学校をつくる。			
分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
学習指導	教育課程	1 生徒の実態に即した教育課程の研究(新教育課程対応、学校設定科目の適正)	B	生徒数が減少する場合を想定した授業展開と、教育課程の一部組み直しを決定した。	生徒の実態と進路をにらんで、付けさせたい学力の内容についてひき続き検討していく必要がある。
	授業の充実・改善	2 多様な生徒に対応した授業展開の研究(全職員の研究・協力態勢)	A	職員研修や職員間の連携を通して授業展開の工夫を行った。個別の対応が必要であり、今後も工夫が必要。	情報を共有しながらよりよい対応を検討していく。特別支援員の支援や助言は引き続き必要である。
		3 授業の再点検による充実・改善(教師間の研修、授業アンケートの実施)	B	授業アンケートの実施を通して充実・改善を図った。	様々な機会からより充実したものになるよう努める。
		4 声がけなど、学習意欲を喚起するための支援ができたか。	A	仕事や家庭生活との両立などの対応が難しく、意欲を継続できるように細やかな支援を行った。	引き続き粘り強く支援していく必要がある。
生徒指導	生徒理解を深める	5 家庭環境や就業状況などを把握し、生徒の生活状況などを理解できているか。	A	三者懇談会、生徒との個別懇談を実施した。また特別支援員、学校医に相談し、的確な情報を得ることができた。必要に応じ保護者に来校してもらい、生徒の現状から今後のついて保護者の理解と協力をお願いすることができた。	生徒の現状を常に把握し、家庭との連携を深め協力を願い、報告・連絡・相談を怠らないよう留意したい。職員間でも、生徒の「おや」と思う点について見逃すことなく予防的対応をしていきたい。
	交通安全指導の実施	6 通学方法を把握し、安全に通学する指導がされているか。また、毎日の生活にも安全意識を持った行動が出来るように投げかけているか。	B	特に大きな事故はなくその点は良かったが、歩行・自転車・原付バイク・乗用車の交通マナーについての法規を守る実践につなげたい。	交通事故は命に係わることであるので、交通安全指導を日々行っていきたい。また登下校の校門での指導は引き続き実践していきたい。
	安全・安心な学校づくり	7 学校生活を送るうえで望ましい態度やマナーを身に付けさせることができたか。(授業中のマナー、規則の遵守)	B	発達障がい傾向の生徒がおり、養護教諭・特別支援員と相談しながら適切に対応できた。年々良好な授業態度が育っている。細かい部分での規則違反はあるが、日常の生活場面で指導し、これも年々良くなって来ている。現金やその他の盗難はここ数年発生していないことは喜ばしいことである。	授業では学び直しの生徒が多数在籍しており、生徒が関心を示し意欲的に学習するための手立てを講じ、基礎学力を付けさせたい。当たり前のことが当たり前に行える生徒の育成をしていきたい。交通事故、いじめ、喫煙、薬物などは、心身や健康に関して喫緊の課題であり特に注意を払いたい。
		8 お互いを尊重し、人権意識を育てるとともに、生徒の変化を見逃さずトラブルの未然防止に向けた取組みを行うことができたか。	A	人権講話、全体集会、HR、授業など学校生活を通して人権感覚を養うことができた。1年次、2年次でSSTを実施し効果があった。少人数で静かな雰囲気の中授業を受けたいと願う生徒が多数在籍しているが、そのような生徒に影響を及ぼすような授業妨害もなく互いに仲間を思いやる気持ちが育っている。	ネットによる人権侵害はないが、引き続き予防に努めたい。生徒会主催の行事など全校参加の行事を通して、仲間づくりを行う中で、いじめのない雰囲気作りに努めたい。
	基本的な生活習慣の定着	9 家庭での生活や学校生活が安定した状況になっているか。(生活実態調査の検討、遅刻・欠席指導)	B	規定間際まで欠席する生徒や、最低単位で卒業しようとする生徒の指導が課題である。単位制・多部制の弊害がでているとも考えられる。	欠席・欠課・遅刻などに関する習慣がルーズで授業にも影響しているので、初心に返らせ時間遵守の気持ちを育てたい。特に卒業さえすれば良いという生徒が単位を落とし、卒業に関わる問題が出てくるので、家庭と協力しながらの指導が必要か。
	相談支援	10 個々の生徒が抱えている課題を共有し、生活の安定や学習活動につなげる支援を行うことができたか。	A	特別支援員や担任との個人面談・三者懇談会、養護教諭の保健室での生徒状況把握、職員間の会話を通して得た生徒の情報や課題を、職員全体で共有し対応することができた。基礎的な学習の支援を要する生徒については、特別支援員に協力をいただき成果をあげている。	専門的な立場で生徒の状況を把握し、職員と連携した生徒対応を実施するために、特別支援教育研究指定校への指定制を引き続きお願いしたい。
進路指導	進学、就職指導の充実	11 希望調査を実施し、進路意識の喚起、進路希望の把握、適切な情報提供ができたか。	A	実際の求人表のデータを随時提供し、卒業予定者の利便を図るとともに、全学年生徒及び保護者へ現況情報を提供した。進路希望調査を年2回行い、集計結果を職員全体の指導資料とした。	細部を改善しつつ、今の取り組みを進めていきたい。
		12 進学・就職における面接・学科試験などの個別指導に対応できたか。	A	校内および提携業者の進学・就職の受験データを活用し、個別に受験の対応ができた。面接対策では管理職や特別支援員にも実施していただいた。	係としての対応を充実させるとともに、生徒が自主的に対策を取れるような環境を整えたい。
	キャリア教育の推進	13 自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導や「総合的な学習の時間」等の中で、体験活動を経験させることができたか。	A	進路講話や、国語表現、就職チャート、キャリアデザインといった教科学習及び総合の時間を使ったソーシャルスキルトレーニングなどで、包括的にキャリア教育を行うことができた。	次年度も引き続きこの方向でキャリア教育を進めたい。
教育活動	クラス運営	14 個々の生徒に応じた履修指導や、クラス・学年でのSHR・LHRの効果的な活用ができたか。	B	個に応じた履修指導を実施することができた。	引き続き、HRの効果的な活用方法を検討していく。
	生徒会活動などの充実	15 保護者との連携を密にしたクラス運営ができたか。(通常の連絡・保護者懇談会の活用)	A	クラス担任を中心に、連携を取り合いながら進めることができた。	成人した生徒についても必要に応じて家庭連絡を取っていく。
		16 文化祭や学校行事に多くの生徒が参加し、計画・実行できるような支援することができたか。	A	文化祭の登校時間を変更し出席率が上がった。他の学校行事も積極的に参加する傾向が見られた。	夜間部として文化祭へ参加する方法を変更する予定。
		17 生徒会活動・部活動の充実が図られたか。	A	卓球部が県大会へ出場した。マンガ・イラスト部も文化祭へ参加し盛り上げた。	人数が減り団体競技の部活は厳しい状況にある実態に合わせて大会やコンクールに参加できるよう模索する。
学校運営	円滑な学校運営	18 校務分掌の合理的・効率的な運営ができたか。(限られた人数で複数の分掌を持つ中での協力態勢)	B	限られた人数の中、協力体制により公務分掌の効率的な運営ができた。	学校運営が十分に出来る最低限の職員配置は必要。
		19 生徒データの管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	A	懇談会などを通して定期的に生徒状況を把握し、各指導と連携した。	生活状況の変化に即して資料整理を行っていく。
		20 本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	B	生徒の実態に応じて各所で改善を進めた。更に継続していく必要がある。	きめ細かな対応を通して生活力をより向上させたい。
	開かれた学校づくり	21 学校公開の内容の充実を図り、わかりやすい情報を提供できたか。(外部の方々の学校への理解)	B	学校公開と体験入学を同日に実施した。具体的な情報を提供できた。	HPを活用するなどして地域の方への情報提供を充実させたい。
	22 同窓会・教育振興会との連携強化を図る取組を行うことができたか。(求人の開拓などのお願)	B	保護者・生徒と教職員による環境整備作業実施など、相互理解の基盤作りができた。	保護者を交えた進路学習など、進路保障のための取り組みを実施したい。	